

飢えている者に必要なのは…

「寒風の中で震え、飢えている者に必要なのは、弾丸ではありません。温かい食べ物と温かい慰めです。これまでのご協力に感謝し、一層の力を尽くしたいと存じます。どうぞ、飢えに瀕した人々と、悪条件の中で働くPMS職員・作業員のためにお祈り下さい。良いクリスマスとお正月をお迎え下さい。」

——中村 哲 (ペシャワール会報134号より)

事業再開への道

——八月の政変以降の活動報告

PMS副院長／ジャララバード事務所所長 ジアウル ラフマン

親愛なる日本の皆様、いつも変わらぬご支援をありがとうございます。八月の政変に際して、私たちの無事を祈っているという皆様のお気持ちはPMS支援室を通じて届いております。いま、私から直接皆様にお礼を申し上げることができて安堵しています。

長老たちとの約束

PMSは、タリバンが南部・北部・西部の州を制圧してアフガン政府軍を退却させた時点で会議を開き、アフガン東部クナール州が制圧されるまでは通常通り活動を続けようと話し合いました。そして同州が掌握された時に様子を見て、今後の活動をどうするか判断することを決めました。現在建設中のバルカシコート取水堰・用水路の現場の対岸がクナール州ヌールガル郡であるため、まずPMSスタッフの安全確保が第一と考えたからです。こうして我々は二

〇二一年八月十四日まで通常通りに動いていました。

八月十四日にタリバンがクナール州を制圧しました。その日私たちはバルカシコートでの工事を中断し、レンタル重機はナンガラハル州のオーナーの元に戻されました。PMSの重機や資機材はバルカシコート村の長老に託しました。彼は責任をもってそれらを守り、管理すると固く約束をしてくれました。また、PMSのミラーン灌漑事務所に置いてある車両や大切な道具はジャララバード事務所(本部)に移動させることにしました。しかし、クナール州制圧後、数時間でナンガラハル州も制圧されたため、実行されませんでした。そこで、ミラーン村代表の長老と速やかに約束を交わしたうえで預けました。

ガンベリ農場のトラクターとその他の農機具などは村の代表に託しました。どの長老も預かった資機材を我々に代わって大事



再開したバルカシコート堰建設。現場では至るところでPMS所有の重機がフル稼働している。
(2021年10月28日)

に保管することを約束してくれました。
その日、ダラエヌール診療所での医療サービスは通常通り続けました。

経済制裁による影響

タリバンがアフガニスタン全土を制圧す

ると、恩赦おんしよの発表があり、国民に向けて仕事に戻るようにとの呼びかけがありました。これを受け、九月二日にPMSは農業事業を再開しました。ダラエヌール診療所は八月二一日に、すでに再開していました。

バルカシコート堰工事を開始できなかった理由はただ一つ、現金がなかったことでした。灌漑工事はレンタル重機や日雇いの作業員を多く要するため、大金が必要になります。ところが、アフガニスタン国際銀行（AIB）をはじめとするすべての銀行が一旦閉鎖したために、現金が手に入らなかったのです。

九月になって新政権が、NGOと企業はひと月にアフガン通貨で二万五千ドル相当まで引き出してよいと発表したのです。私たちも早速九月二〇日に銀行から上限額を引き出しました。一カ月後の十月二一日に再び銀行に行きました。が、「申し訳ないが預金の引き出しは出来ない」と言われました。その後何度も電話をし続けた結果、十月二三日にアフガン通貨で一万ドル分を引

き出すことができました。

農業事業からの収入と九月二〇日に銀行から引き出した分で、工事現場で働く日雇いの作業員たちの賃金を二カ月ぶりに支払うことができました。また十月七日にはバルカシコートの工事や河川観測（水位測定）などを再開しました。重機の燃料を購入できたために、まだ全開とは言えないものの、バルカシコート事業はゆっくり着々と進行しています。

PMSの活動再開にあたっては、まずタ



ジャララバード事務所での朝礼。ジア副院長が朝礼挨拶をした後、サーブルジャンが点呼をとり、出欠確認をしている。(2021年10月24日)

リバン政権下のナンガラハル州農業灌漑局とシェイワ郡長から彼らの事務所に呼ばれました。そこで、PMSの水路建設担当のエンジニアと農業事業の責任者が彼らに活動を説明しました。すると、彼らはPMS事業の視察に来ました。現場を見た彼ら



バルカシコート取水門で、ナンガラハル州灌漑局のタリバンにPMS方式を説明するディダール技師(右)とファヒーム技師(左から2人目)。(2021年9月21日)

は私たちの事業を称賛し、ドクターサーブ中村への多大な賛辞を述べて、いかなる協力も惜しまないと約束しました。ケーブルの情勢がほぼ平常に戻ったことを確認した上で、PMSのドクターサーブナムラコミッティのメンバー数名が、タリバン担当官との協議のためにケーブルに向かいました。担当官は私たちに事業を再開してもよいと告げ、治安維持への協力を申し出ました。私たちはジャララバードに戻って再び会議を開き、PMSの全事業を再開することを決定しました。現在、PMSの全てのプロジェクトは進行しており、他のNGOが全て活動を停止しているなかで、PMSが活動を続けていることは何よりも意義深いことです。

私たちの日常業務

PMSの一日は毎朝八時に始まります。朝礼で全職員の出欠確認を経て、それぞれの勤務場所に向かいます。各現場から物品購入の依頼があれば、購買担当がバザール



ジャララバード事務所内の給油所。会計担当が必ず立ち会いながら燃料を補給して、現場の重機や車両に届ける。(2021年10月24日)

に出向いて見積りを取ります。また、バルカシコートの工事現場とガンベリ及びミラインの各事務所からのリクエストに応じて、ジャララバード事務所専用に燃料を専用車に移して現場へ届けます。各事務所は現場職員の出欠と作業員数の確認、現場倉庫のストックの確認をして、ジャララバード事務所に報告します。ジャララバード事務所はこれらの報告書をまとめて日本に送ります。以上が、私たちの日常業務の内容です。感謝を込めて、ご報告いたします。